



(秋田)

秋田・東根小屋町遺跡

ひがしねごやまち

- 所在地 1 秋田市中通二丁目
調査期間 2 一〇〇一年(平成14) 一月～二月、一〇〇二年三月～四月

- 発掘機関 3 秋田県埋蔵文化財センター
調査担当者 4 高橋 学・五十嵐一治ほか

- 遺跡の種類 5 武家屋敷跡

- 6 遺跡の年代 江戸時代

- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

東根小屋町遺跡は、秋田市街地の中心部、近世秋田藩主佐竹氏の

居城久保田城の外堀から五〇mほど南に位置する。今

回の調査は、秋田県教育・

福祉複合施設整備事業に伴

うもので、調査面積は一二八五m²である。

遺跡は、上級武士の屋敷

が軒を連ねる参勤交代路に面する。築城時の現況を記

- 8 木簡の釈文・内容

H6地区SKIIH07

(1) 「○□□□

(2) 「上白□□□斗入

H1川地図のX圖110六

(3) 「○(焼印) □□□□□□□□

94×30×9 011

録した「御国替当座御城下絵図」(秋田県公文書館蔵)によると、広大な湿地帯を埋め立てて屋敷地を造成したことが確認できる。今回の調査でも、地盤沈下と嵩上げ造成を繰り返したことが確認できた。これは前後して実施された久保田城跡(外堀・中土橋部分)の発掘調査で確認した基本層序でも、共通する一連の自然堆積層を確認し、前記古絵図に描かれた当時の状況を再確認することができた。

検出した遺構は、掘立柱建物を構成する柱穴を中心にして一〇〇を超える。遺物は、陶磁器・木製品・金属製品など多岐にわたる。木簡は、土坑など遺構に伴うもの四点、造成土中から三点、計七点出土した。およその時期は、遺構内出土のものが一七世紀後半頃、遺構外出土のものがそれ以降と思われる。

H-11 地図の×図 | O-1



○ □ □

(197) × 54 × 6 051

H-6 地図造成土

(5) • 「○御用 細□

・「○御用 細□
〔細カ〕

(211) × (38) × 8 081

SHA4 地図

(6) 「□□ □□□」

157 × 18 × 4 051

(7) □ □

(110) × (15) × 4 081

(1)は下端が欠損し、側面は粗く面取りされている。釘穴があり、付札の類と思われる。

(2)は下端を尖らせているが、欠損している。何かに挿し込む形態で使用される木札の類と思われる。

(3)は上部に焼印が押される。釘穴があり、付札の類と思われる。

(4)(5)にも釘穴があり、付札の類と思われる。(4)の上端は左右両隅

を山形に切り落としているようだが、作りが粗い。下端を尖らせており、何かに挿し込む形態で使用された可能性もある。

(6)は下端を尖らせている。何かに挿し込む形態で使用される木札の類と思われる。(7)は欠損により詳細不明。

9 関係文献

秋田県教育委員会『東根小屋町遺跡』(秋田県文化財調査報告書二八七、一〇〇五年)

(高橋 学(秋田県払田柵跡調査事務所)・五十嵐一治(秋田県教育厅))

